

平成27年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1495200188	事業の開始年月日	平成24年7月1日
		指定年月日	平成24年7月1日
法人名	メディカル・ケア・サービス株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム中原下小田中		
所在地	(211-0041)		
	神奈川県川崎市中原区下小田中3-28-18		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員 名	
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員 名	
		宿泊定員 名	
		定員計 18 名	
		ユニット数 2 ユニット	
自己評価作成日	平成27年7月17日	評価結果 市町村受理日	平成27年9月24日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.rakuraku.or.jp/kaigo/w10/wp/IDetails.aspx?IGNO=ST1495200188&SVCD=320&THNO=14130>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームでは、利用者様に対し「1日に何回笑って頂けるか」を目標とし、「その人らしさ」を大切にされたケアを、日々、心掛けております。認知症や心身の障害があっても、いついかなる時でも、人が人らしくあり続ける為、施設に入居される以前と同じように自分らしいライフスタイルで生活して頂く為、入浴や散策、余暇活動等の時間設定を極力設けず、お一人お一人の個性や趣向を重視した「したい時にしたい事ができる環境」作りも進めております。又、地域に根付いた認知症対応型施設として、近隣の地域活動にも積極的に参加する事で交流を図る他、様々な機会を通じて新たな出会いや触れ合いを大切にして行きます。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 湘南リハウスビル4階		
訪問調査日	平成27年8月21日	評価機関 評価決定日	平成27年9月14日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

事業所は、JR南武線武蔵中原駅南口から徒歩15分程の、畑や住宅に囲まれた静かな環境にあります。平成24年7月に設立された事業所です。法人は、埼玉県に本社があり、全国に数多くの介護事業を展開する「メディカル・ケア・サービス株式会社」です。

<優れている点>

フロアでは職員がてきぱきと動き、豊富な声掛けで利用者に寄り添った支援をおこなっています。小さな変化も見逃さず、希望や要望に即したサービスの提供を心掛け、ホーム長も現場に入ってケアの質の向上に力を入れています。利用者一人ひとりを理解したいと考え、日々の記録に気付いた事柄を記入する書式を取り入れ、効果を上げています。計画作成では、3カ月毎の更新と定め、現在の心身の状況にあった丁寧な目標設定で自立を促しています。また、職員がテーマを決めて研究し、発表の機会を作っており、職員の学ぶ意欲の高さを支援の充実に繋げています。今後は、地域の社会資源の活用にも更に積極的に取り組み、個別支援に活かしていきたいと考えています。

<工夫点>

施設運営は法人本部の専門家の支援を受け、特に栄養・調理、口腔ケア・機能訓練等は充実しています。施設運営の随所に働きやすさへの拘りが見られます。帳票類を改訂し、利用者の個別目標に沿った支援が確認できるようにした介護記録、利用者名を印刷済みのメモ用紙の使用等でケア水準向上をめざしています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	愛の家グループホーム中原下小田中
ユニット名	1階 せせらぎユニット

V アウトカム項目	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	1, ほぼ全ての利用者の
	○ 2, 利用者の2/3くらいの
	3, 利用者の1/3くらいの
	4, ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある
	2, 数日に1回程度ある
	3, たまにある
	4, ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3, 利用者の1/3くらいが
	4, ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	1, ほぼ全ての利用者が
	○ 2, 利用者の2/3くらいが
	3, 利用者の1/3くらいが
	4, ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	1, ほぼ全ての利用者が
	○ 2, 利用者の2/3くらいが
	3, 利用者の1/3くらいが
	4, ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3, 利用者の1/3くらいが
	4, ほとんどいない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	1, ほぼ全ての利用者が
	○ 2, 利用者の2/3くらいが
	3, 利用者の1/3くらいが
	4, ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ全ての家族と
	○ 2, 家族の2/3くらいと
	3, 家族の1/3くらいと
	4, ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ毎日のように
	2, 数日に1回程度ある
	○ 3, たまに
	4, ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1, 大いに増えている
	○ 2, 少しずつ増えている
	3, あまり増えていない
	4, 全くいない
66 職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	1, ほぼ全ての職員が
	○ 2, 職員の2/3くらいが
	3, 職員の1/3くらいが
	4, ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての利用者が
	○ 2, 利用者の2/3くらいが
	3, 利用者の1/3くらいが
	4, ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての家族等が
	○ 2, 家族等の2/3くらいが
	3, 家族等の1/3くらいが
	4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	運営理念をホーム全体で共有・実践する為、全体での定期的な理念唱和・確認を実施しております。	事務所、スタッフルーム、フロアの壁に法人の運営理念、施設目標を掲示しています。職員全員が名刺サイズの「クレド（ケアの信条）」を携帯し、日々の支援に活かしています。定例会議の冒頭で理念を唱和し、確認と周知徹底に努めています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域イベントへの参加・近隣保育園等との交流を図っている。	地域行事への招待、郵便局、商店への買い物や散歩先での交流も増えています。地域の祭りでは施設駐車場を神輿巡りに提供する予定で、関係性は良好です。町内会に加入し、運営推進会議には自治会長兼民生委員等地域の人が意見を述べています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	運営推進会議を通して、認知症について理解を深めて頂けるよう研修・勉強会を行っております。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	活動報告後、話し合いの時間を設けて、意見や提案の吸い上げに努めております。	運営推進会議は2ヶ月に1回開催しており、利用者家族、民生委員等地域代表、包括支援センター職員等が参加しています。行事報告、防災訓練、事故・ヒヤリハット報告など、参加者が意見交換しています。ホームを理解してもらう為の取り組みに積極的です。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議の他、管理者が定期的に区役所等に赴き、ホームの活動や状況報告を行っております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束に関する研修を実施し、ホーム全体での理解に努めております。	定例会議やフロア毎のミーティングで研修の機会を持ち、身体拘束の廃止や高齢者虐待防止を徹底しています。介護マニュアルにも明記し職員は共通認識を持って業務についています。日々の支援では行動制限や無理強いはなく、ケア日報や申し送りノートで複数の職員が状況を確認しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	身体拘束同様、内部研修を実施。今後も行っていく予定です。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	定期的に行っている、内部研修や本社より指導して頂く研修や講義を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には契約書や重要事項説明書の読み合わせや質疑に充分時間を取り、ご家族様や御本人様の理解を図っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議を始め、ご意見ボックスを設置し、御意見と御要望の吸出しに努めております。	面会の家族に気軽に話しかけ、意見・要望が出やすい環境を作っています。電話での状況報告は多く、行事に参加の家族の意見を聞き次回の企画に活かしています。満足度調査を実施し、書面での意向確認の内容を運営に活かしています。意見箱も設置しています。	運営推進会議出欠表の下段にご意見欄を設け、小さな要望・希望も遠慮なく発言できるようにしています。意見を表明しにくい家族等の意見を吸い上げ、運営に反映させる努力の継続を期待します。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	管理者やスタッフとの面談を定期的に行い、普段、聞き出しにくい意見や提案を聞き取る環境作りを行っている他、ユニット会議やホーム会議でも発言の場を設けております。	毎月の会議では、経過記録を基に利用者ごとの支援を報告・検討しています。毎日の詳細な申し送り、共有のノートの活用で情報の共有に努める他、帳票類の書式改訂で職員の負担軽減に努めています。業務の流れも職員が話し合って決めています。	ホーム長は職員個別面談で直接意見を聞く機会を持っています。職員の育ちを応援する気持ちを込め公平性にも配慮しています。職員が段階を踏みながら学び、スキルアップに繋げることを期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	上記同様、スタッフの面談での対応や各スタッフの意見の吸出しを行い、職場環境や勤務勤務条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	定期的なホーム内研修の他、社内と社外研修にも精力的に参加を促し、各スタッフ、及び、ホーム全体のスキルアップを進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	定期的な同地域内でのグループホーム連絡会を開催しており、交流を図ると共に、サービスの質の向上に努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	契約前にアセスメントや契約時等に十分な時間を確保し、御本人様からの「言葉」をできるだけ引き出すように努めております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	事前に聞き取りの時間を大切にし、御本人様同様、御家族様の声を大切にするように心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	当方からは強要はせず、選択肢や方法を提示し、最終的な御判断は、御本人様と御家族様に委ねる形を取っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	「スタッフと入居者様が一緒に生活を築き上げていく」という考え方を持って、一方的な介護ではなく、入居者様が主となり、それらを支える支援を大切にしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	御家族様とは、可能な限り密接に連絡を取りながら、御本人様を支えるチームとしての関わりを心掛けている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	御家族様と連絡を取り、病院や外出等、可能な限り馴染みの町、馴染みの場所を大切に、日課作りを進めている。	入所前の情報を職員が共有しています。担当職員が本人と相談し生まれ育った場所や、馴染みの商店に出掛けています。懐かしい友人が訪ねて来る人もおり手紙や電話も取り次いでいます。愛着ある衣類の持参も勧め懐かしい写真を部屋に飾っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	生活を共にする同フロア内の入居者様同士は勿論の事、フロア間の交流も大切にし、施設一体で支えあう事の出来る環境を築いている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退去された方やその御家族様に対し、ケアを行って参りました。中には、お礼や感謝の言葉も頂いております。今後も、その場で切れてしまう関係ではなく、いつまでも繋がっていただける環境を築いてまいります。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	その方の生活全般において、全ての決定権は、御本人様にあるという、基本を大切にし、その都度、アセスメントやケアプランを作成しております。	意思の確認が難しい利用者もいますが、ボディーアクションなどを交え意向の把握に努めています。担当制の実施や豊富な声掛けで意向に沿った支援をめざしています。小さな変化も見逃さず本人らしさを大切にした生活が送れるよう全職員で取り組んでいます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前のアセスメントは勿論ですが、入居後も、御本人様や御家族様から聞き取りを行う「知る努力」を怠らないように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	ケアプランのモニタリングを介護記録と連動させて行う事で、日々、現状の把握が行えるように工夫している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	御家族様やケアマネージャーとの面談を随時行っており、その内容をスタッフに情報として共有する形を取っている。	丁寧なアセスメントの実施で的確な目標を定め計画を立案しています。計画は3ヶ月ごとに更新し、計画に沿った支援の評価は毎日職員によって実施しています。個別の課題を担当者会議で検討し現状に合った介護計画を作成しており全てにきめ細やかな対応です。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	記録を行い、スタッフ間で情報共有を行いながら、介護計画の見直しをケアプラン落とし込んでいる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	御本人様の希望や御家族様の要望を理解した上で、固定観念に囚われない対応を心掛けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域の祭りやイベントへの参加を行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	提携病院の強要等は、一切行わず、選択肢の一つとして提示し、かかりつけ医の選択を推奨している。	提携する医療機関の往診医に受診できることを書類に明示し説明しています。かかりつけ医の選択については本人等の意向を大切にしています。毎月、家族へ送付する「ホーム便」の”最近の医療情報”の欄で利用者の直近の状況を伝えています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	週に1回、訪問看護が見えます。訪問看護と情報を共有し、細やかなケアに努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主に管理者やケアマネージャーが面会に訪れ、面会と病院関係者との情報の収集と状況の把握に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	医療関係や御家族様、当ホーム関係者が一丸となってチームと成し、具体的な方向性をしっかり話し合い、支援に取り組んでおります。ターミナルケアを行った実績もあります。	重度化した場合の対応については、家族等と早い段階から話し合い、関係者が方向性を共有し、質の高い介護が実施できるように取り組んでいます。ターミナルケアの実績もあり、経過記録等は参照し活用できるように整備保存しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	様々な研修に参加する事で、実践力の向上と技術の発展に努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	定期的に防災訓練や内部、若しくは外部の研修に参加し、万が一の状況に備えている。	年2回の防災訓練では、消防署の指導の下で避難訓練や通報装置の操作方法などを近隣の方の参加協力を得て実施しています。また地域の防災訓練に職員が参加しています。屋外の防災備蓄庫に飲料水や食料などを一覧表を備えて管理しています。	訓練は、近隣の方の参加協力を得て実施しています。引続き地域住民とのさらなる密接な関係づくりを通じ、訓練実施に参加協力が得られる体制の構築が期待されます。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	声かけや接遇に関しては、常識的に指導や勤勉に励み、御本人様の存在に対して、尊厳を尊重した接し方を行っている。	「利用者に必要なものは関わる私達のハートです」の考えの下で支援しています。利用者の誇りやプライバシーについて職員は互いに確認し合うこととしています。人格の尊厳とプライバシーの確保について事業所内外の研修で理解を深めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	常に、御本人様が選択する自由を持っていることを忘れることなく、接するよう指導、教育を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	当施設は、スタッフにとっては職場であるも、ご入居者様は生活の場であることを認識し、業務に従事している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	ご入居者様の希望に添えるように、お化粧品や、ネイルなどを実施している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事の準備や後片付け等、出来るだけ、ご入居者様と一緒に参加する事で、生活の場での役割を提供している。	利用者は準備や後片付けを職員と一緒にに行っています。誕生会や雛祭りなどの行事をほぼ月に1回行い、料理を用意し、ピザや寿司などを取寄せる楽しい企画をしています。「衛生管理日誌」を記録しメニューや衛生状況をチェックしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	専属の調理師を配置し栄養管理に努めており、また記録の確認やチェック表の作成など、お一人お一人の健康状態の把握に努めております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	ご入居者様、お一人お一人にあった口腔ケアを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	ご入居者様、それぞれの排泄に関わる問題を把握し、理解した上で、それぞれにあった方法で支援している。	一人で行ける人や或いは、言葉かけが必要な人など特性やパターンを理解・把握してトイレでの排泄に向けた支援を行っています。自然な排泄と免疫力向上を目的に乳酸菌を食事の際に一緒にとるように今年4月から実施し、検証をしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	薬に頼る前に食事療法や運動療法等を取り組み、積極的に提供している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	ご入居者様お一人お一人の好みに合わせ、入浴を楽しんで頂けるように提供している。	一人ひとりのタイミングにあわせて楽しく入浴出来るように努めています。手すりを適所に取付けて安全に配慮したつくりになっています。脱衣場の壁面に塗布する軟膏等の利用者別一覧表を貼って確実な対応ができるように取り組んでいます。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	ご入居者様お一人お一人に沿った睡眠状況を把握し、最良な睡眠を提供できるように提供している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	担当医や看護師との連携を密に図り、慎重且つ正確な対応に努めると共に、スタッフへの薬の効果や副作用の周知を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	その方らしい生活を行えるように、個性や趣向を尊重したケアを目指して取り組んでいる。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	定期的に外気浴や散歩、買い物などのサービスは提供できている。家族の協力を得ながら、外出も積極的に支援している。	利用者の希望や特性によって散歩や買い物など同行して、運動と気分転換が出来るように日常的に支援をしています。玄関前の広場にテーブルや椅子を置いて外気浴を兼ね食事などを行っています。初詣や花見など、季節にあわせて外出支援を行っています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ホーム管理とさせて頂いておりますが、ご入居者様が望まれた場合、お預かりしている金額より、自由に買い物等を楽しんで頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	御本人様が希望された場合、電話や手紙等の支援を行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	分かりやすい表示を掲示し、ご入居者様が混乱しないように努めている。又、季節に応じたフロア内の飾りなども行っている。	リビングの壁面などに手作りのカレンダーや季節を感じる飾り付けをしています。また過去の重大な出来事の「今日は何の日」を大きく掲示して利用者の関心を促しています。事業所内は職員による毎日及び適宜の清掃のほか専門業者による定期的清掃によって清潔を心がけています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	部屋は個室になっており、お一人で過ごせる環境にある。またフロアはいつでもご自由に使用できる状況にあり、ご自由に使用して頂いている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	永く使用された物や愛着のある物を多く持参されることで、入居初日より快適に過ごして頂いている。	居室には、使い慣れた物や、写真・好みのものを配置しています。居室入口にはスナップ写真や手作りの花飾りなどでかざり、温もりを演出しています。呼び出しコールや、必要な利用者にはベッドのそばにセンサーを置いて安全を確保しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	施設内の様々な環境や道具を活かすことで、安心して安全な生活を送って頂いている。		

事業所名	愛の家グループホーム中原下小田中
ユニット名	2階 パンジーユニット

V アウトカム項目	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	1, ほぼ全ての利用者の
	○ 2, 利用者の2/3くらいの
	3, 利用者の1/3くらいの
	4, ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある
	2, 数日に1回程度ある
	3, たまにある
	4, ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3, 利用者の1/3くらいが
	4, ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	1, ほぼ全ての利用者が
	○ 2, 利用者の2/3くらいが
	3, 利用者の1/3くらいが
	4, ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	1, ほぼ全ての利用者が
	○ 2, 利用者の2/3くらいが
	3, 利用者の1/3くらいが
	4, ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3, 利用者の1/3くらいが
	4, ほとんどいない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	1, ほぼ全ての利用者が
	○ 2, 利用者の2/3くらいが
	3, 利用者の1/3くらいが
	4, ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ全ての家族と
	○ 2, 家族の2/3くらいと
	3, 家族の1/3くらいと
	4, ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ毎日のように
	2, 数日に1回程度ある
	○ 3, たまに
	4, ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1, 大いに増えている
	○ 2, 少しずつ増えている
	3, あまり増えていない
	4, 全くいない
66 職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	1, ほぼ全ての職員が
	○ 2, 職員の2/3くらいが
	3, 職員の1/3くらいが
	4, ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての利用者が
	○ 2, 利用者の2/3くらいが
	3, 利用者の1/3くらいが
	4, ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての家族等が
	○ 2, 家族等の2/3くらいが
	3, 家族等の1/3くらいが
	4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	運営理念をホーム全体で共有・実践する為、全体での定期的な理念唱和・確認を実施しております。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域イベントへの参加・近隣保育園等との交流を図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	運営推進会議を通して、認知症について理解を深めて頂けるよう研修・勉強会を行っております。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	活動報告後、話し合いの時間を設けて、意見や提案の吸い上げに努めております。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議の他、管理者が定期的に区役所等に赴き、ホームの活動や状況報告を行っております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束に関する研修を実施し、ホーム全体での理解に努めております。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	身体拘束同様、内部研修を実施。今後も行って行く予定です。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	定期的に行っている、内部研修や本社より指導して頂く研修や講義を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には契約書や重要事項説明書の読み合わせや質疑に充分時間を取り、ご家族様や御本人様の理解を図っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議を始め、ご意見ボックスを設置し、御意見と御要望の吸出しに努めております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	管理者やスタッフとの面談を定期的に行い、普段、聞き出しにくい意見や提案を聞き取る環境作りを行っている他、ユニット会議やホーム会議でも発言の場を設けております。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	上記同様、スタッフの面談での対応や各スタッフの意見の吸出しを行い、職場環境や勤務勤務条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	定期的なホーム内研修の他、社内と社外研修にも精力的に参加を促し、各スタッフ、及び、ホーム全体のスキルアップを進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	定期的な同地域内でのグループホーム連絡会を開催しており、交流を図ると共に、サービスの質の向上に努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	契約前にアセスメントや契約時等に十分な時間を確保し、御本人様からの「言葉」をできるだけ引き出すように努めております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	事前に聞き取りの時間を大切にし、御本人様同様、御家族様の声を大切にするように心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	当方からは強要はせず、選択肢や方法を提示し、最終的な御判断は、御本人様と御家族様に委ねる形を取っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	「スタッフと入居者様が一緒に生活を築き上げていく」という考え方を持って、一方的な介護ではなく、入居者様が主となり、それらを支える支援を大切にしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	御家族様とは、可能な限り密接に連絡を取りながら、御本人様を支えるチームとしての関わりを心掛けている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	御家族様と連絡を取り、病院や外出等、可能な限り馴染みの町、馴染みの場所を大切にしたい、日課作りを進めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	生活を共にする同フロア内の入居者様同士は勿論の事、フロア間の交流も大切にし、施設一体で支えあう事の出来る環境を築いている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退去された方やその御家族様に対し、ケアを行って参りました。中には、お礼や感謝の言葉も頂いております。今後も、その場で切れてしまう関係ではなく、いつまでも繋がっていただける環境を築いてまいります。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	その方の生活全般において、全ての決定権は、御本人様にあるという、基本を大切にし、その都度、アセスメントやケアプランを作成しております。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前のアセスメントは勿論ですが、入居後も、御本人様や御家族様から聞き取りを行う「知る努力」を怠らないように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	ケアプランのモニタリングを介護記録と連動させて行う事で、日々、現状の把握が行えるように工夫している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	御家族様やケアマネージャーとの面談を随時行っており、その内容をスタッフに情報として共有する形を取っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	記録を行い、スタッフ間で情報共有を行いながら、介護計画の見直しをケアプラン落とし込んでいる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	御本人様の希望や御家族様の要望を理解した上で、固定観念に囚われない対応を心掛けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域の祭りやイベントへの参加を行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	提携病院の強要等は、一切行わず、選択肢の一つとして提示し、かかりつけ医の選択を推奨している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	週に1回、訪問看護が見えます。訪問看護と情報を共有し、細やかなケアに努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主に管理者やケアマネージャーが面会に訪れ、面会と病院関係者との情報の収集と状況の把握に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	医療関係や御家族様、当ホーム関係者が一丸となってチームと成し、具体的な方向性をしっかり話し合い、支援に取り組んでおります。ターミナルケアを行った実績もあります。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	様々な研修に参加する事で、実践力の向上と技術の発展に努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	定期的に防災訓練や内部、若しくは外部の研修に参加し、万が一の状況に備えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	声かけや接遇に関しては、常識的に指導や勤勉に励み、御本人様の存在に対して、尊厳を尊重した接し方を行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	常に、御本人様が選択する自由を持っていることを忘れることなく、接するよう指導、教育を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	当施設は、スタッフにとっては職場であるも、ご入居者様は生活の場であることを認識し、業務に従事している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	ご入居者様の希望に添えるように、お化粧品や、ネイルなどを実施している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事の準備や後片付け等、出来るだけ、ご入居者様と一緒に参加する事で、生活の場での役割を提供している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	専属の調理師を配置し栄養管理に努めており、また記録の確認やチェック表の作成など、お一人お一人の健康状態の把握に努めております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	ご入居者様、お一人お一人にあった口腔ケアを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	ご入居者様、それぞれの排泄に関わる問題を把握し、理解した上で、それぞれにあった方法で支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	薬に頼る前に食事療法や運動療法等を取り組み、積極的に提供している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	ご入居者様お一人お一人の好みに合わせ、入浴を楽しんで頂けるように提供している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	ご入居者様お一人お一人に沿った睡眠状況を把握し、最良な睡眠を提供できるように提供している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	担当医や看護師との連携を密に図り、慎重且つ正確な対応に努めると共に、スタッフへの薬の効果や副作用の周知を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	その方らしい生活を行えるように、個性や趣向を尊重したケアを目指して取り組んでいる。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	定期的に外気浴や散歩、買い物などのサービスは提供できている。家族の協力を得ながら、外出も積極的に支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ホーム管理とさせて頂いておりますが、ご入居者様が望まれた場合、お預かりしている金額より、自由に買い物等を楽しんで頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	御本人様が希望された場合、電話や手紙等の支援を行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	分かりやすい表示を掲示し、ご入居者様が混乱しないように努めている。 又、季節に応じたフロア内の飾りなども行っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	部屋は個室になっており、お一人で過ごせる環境にある。またフロアはいつでもご自由に使用できる状況にあり、ご自由に使用して頂いている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	永く使用された物や愛着のある物を多く持参されることで、入居初日より快適に過ごして頂いている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	施設内の様々な環境や道具を活かすことで、安心して安全な生活を送って頂いている。		

平成27年度

目標達成計画

事業所名 愛の家グループホーム中原下小田中

作成日： 平成 27年 9月 17日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	10	現状もご家族様の意見を聞けるよに、運営推進会議出欠表にご意見欄などを設けたり、ホームにご意見箱を設置するなどをしているが、ご意見を頂けるご家族様はあまり多くない。	どのご家族様にも今以上に意見がしやすい環境を整え、ご意見やご要望を反映していく。	運営推進会議のご意見欄をチェック方式し、より簡潔な回答方法にする。またご意見箱をより目立つ場所に設置し、ご意見を頂きやすい環境を作る。ご家族様との良好な関係性を作り、ご意見やご要望をお聞きしやすい環境を作る。	2ヶ月
2	13	年2回の防災訓練を行っているが、シフト都合により参加できていない職員もいる。	災害時に備え、最低でも年1回は全職員が防災訓練に参加する機会を設ける。	シフトを調整し、全職員が最低年1回は防災訓練に参加する。	3ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月